

日本アンダーライティング協会

第65回教育講習会リモート開催

AIと保険実務への応用テーマに

日本アンダーライティング協会は2020年11月27日、第65回教育講習会を行った。従来は集合型研修だったが新型コロナウイルス感染症対策のため、リモート形式での研修となった。今回の講習会では「AIと保険実務への応用」をテーマに、保険分野に特化したAIスタートアップ企業であるシフトテクノロジージャパン(株)のシニアデータサイエンティストの植村洋介氏が、約1時間わたるレクチャーを行った。

説明した。

また、AI活用の代表的な目的として「人手不足対策」「(面白くない)作業の自動化」「処理の速さ」「人間が簡単にできないこと」などがあり、物流センター、フェイスブックのコンテンツクリーニング、チャットボット、検索予測、防犯カメラの画像認識、航空機のオートパイロット機能、迷惑メール分類、自動車の自動運転などの事例を挙げ紹介した。



第65回教育講習会の様子

植村氏は、講演の冒頭で人工知能(AI)の定義や関連概念を解説した。AIとは人間の知能プロセスのシミュレーションであり、「学習」「推論」「自己修正」のプロセスが含まれること、また、AIの中でもデータの特徴を学習し、結果からデータの予測や

分類をするための法則性を見つかるアルゴリズムが「機械学習」、さらに機械学習の中でもデータを学習することで、自動で注目すべき特徴を抽出し予測や分類を行うものが「ディープラーニング」であることなどを解説した。

また、AIの歴史と各

産業・分野での活用事例を紹介。AI開発の歴史は新しいものではなく、65年前から開発されており、第一世代としては「ルールベース」、第二世代としては「統計探索モデル」、そして現在、

第三世代として開発が進んでいるものは「脳モデル」として分類されると

シフトテクノロジージャパン 植村氏がレクチャー

「画像認識」「手書き文章のテキスト認識」「ECサイトの自動レコメンド」

「手書き文章のテキスト認識」「ECサイトの自動レコメンド」

について、技術的な面とともに詳しく解説した。

処理も可能になると語った。

講義の後半はAIの保険への活用について詳しく取り上げた。まず基礎として人間が日常的に使っている言語をコンピュータに処理させる一連の技術である「NLP(自然言語処理)」や、データ処理のために誤記やデータ形式の揺れなどの異常データを除去する「データクリーニング」などの技術概念を解説した。

また、これを応用すると、「フリーテキストで記載された診断書のデータ化」や、情報にさまざまなノイズが含まれる中の「人物・組織情報の名寄せ」といった高度な

最後の質疑応答では、「AI化に伴う業務の自動化はどうか」「AIは従来の統計分析アプローチとどのような点で異なるのか」「AI化に対応する人材育成で重要な点は何か」「現在、技術的にAIが苦手とする分野にはどのようなものがあるか」などの質問が寄せられた。

「AI化に伴う業務の自動化はどうか」「AIは従来の統計分析アプローチとどのような点で異なるのか」

「AI化に伴う業務の自動化はどうか」「AIは従来の統計分析アプローチとどのような点で異なるのか」

「AI化に伴う業務の自動化はどうか」「AIは従来の統計分析アプローチとどのような点で異なるのか」